取材

団体名: NPO 法人 YORISOI network

代表 : 布施 太一郎 様 (38 期園芸学科卒)

担当: 広報情報部会

作成: 2020.12.09

「特定非営利活動法人 YORISOI network」とは

〇レイカディア大学 38 期園芸学科在学中にクラスメイト 4 名で、「こども・自然・高齢者に寄り添 う」の三つの柱を掲げ活動開始。

ONP0 法人設立: 2017 年 4 月

〇主な活動分野

【子ども食堂支援事業】【環境整備事業】【YORISOI農園活動】【その他・地域安全活動ほか】

〇会 員: 2020 年度 27 名

取材イベント『焼き芋フェスタ』

とき: 2020年12月5日

場所:滋賀県営都市公園びわこ文化公園



レイ大の"卒業生は今!"と言う企画で、たくさんの 先輩方がボランティア活動されている中の一つ、今回は 「子供・自然・高齢者に寄り添う」という三つの柱で活 動されている NPO 法人 YORISOI network の布施代表とス タッフの皆さんの活動を取材しました。

12月5日、好天に恵まれたびわこ文化公園にて"焼き芋 フェスタ"が開催されました。

会場の公園管理事務所前には小さい子供連れの12家族が集 まりました。受付を済ませ、布施代表の挨拶等の後、焼き芋 のための焚き火の場所に移動し、すでに焚き火は布施代表 や YORISOI スタッフの皆さんが朝早くから準備されてい て、煙たつ焚き火に参加の子供達は興味津々の様子。



後列左からメンバーの堀田さん 深尾さん新さんと布施さん









はい! お芋をどうぞ!



新聞紙は濡らしてね

親子で協力して大きなサツマイモを水で濡らした新聞紙でくるみ、その上からアルミ箔で包み焼き芋の準備をしました。

スタッフが焚き火にサツマイモを入れてくれて、でき あがるまで参加者は管理事務所の研修室に移動し焚き 火の元になる落ち葉やどんぐり等の樹木の話をスタッ フの岡部さんから教わりました。

そしていよいよ焼き上がる焚き火のところへ、どんぐり拾いをしながら向かいました。スタッフから焼き上がった焼き芋を焚き火から取り出してもらい、熱々を注意しながら手に取り、いい匂いのするほくほくの焼き芋をいただきました。

コロナ禍の中、子ども食堂も中止になったり、子供に 寄り添う企画も制限される中、参加者は楽しい時間を過 ごしていました。



落ち葉はどうしてできるか 知っているかな?







この辺りにあると思うよ。 もう焼けてるかな?



熱々の焼き芋できあがり

NPO 法人 YORISOI network の活動も5年目を迎えられ、「人生を楽しく生きる」この言葉をモットー に仲間の皆さんと一緒に活動をされています。

最後に布施代表に伺いました、

Q;励みになることは?

子ども食堂では子ども達の笑顔に出会えることと、提供した食材を活用していただいていると いうお言葉をいただいたとき。

Q;継続されている秘訣は?

会員の方々がそれぞれの得意分野で活動に協力していただいていること。

Q;今後の課題などは?

会員の高齢化や家族の介護などで会員数が減ってきているので、私たちの活動に興味のある方 の参加をお待ちしています。

現在の活動を紹介していただきました



畑を耕す

畝づくり

玉ねぎの収穫



子ども食堂



収穫した野菜を子ども食堂へ配送



子供たちと芋ほり



文化公園の清掃